

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 Y.H

1. はじめに

2026年3月10日から2026年3月18日までの9日間、本学の国際交流基金の助成を受け、オーストラリア薬学語学研修に参加させていただきました。Queensland州にあるGriffith Universityにおいて薬学と語学の研修を受けたことや、Gold Coast Private Hospitalの見学したことについて報告します。

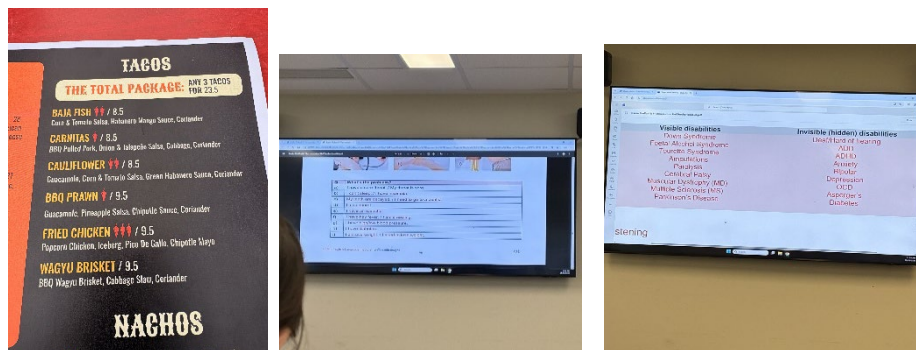
2. 渡航前に考えていた自分の目標

私は、英語力や問題解決能力の向上を目指すとともに、オーストラリアでの多文化理解によって自分の視野を広げることを目標にしてこの留学プログラムに参加しました。

3. 目標は渡航後どの程度達成できたか

1) 英語力の向上

Griffith大学での英語レッスンに加え、移動時のバスや電車、食事などのメニュー表記などもすべて英語。家に帰ってホストファミリーに1日あったことを話す生活を毎日続けた結果、英語を話すときの抵抗感やためらいが無くなることに気づきました。また、ホストファミリーがゆっくりと話してくださることもあると思いますが、研修が終わるころには少し会話できるようになり、スピーキング力やリスニング力が向上したと思います。



2) 問題解決能力の向上

残念ながら問題解決能力は向上しなかったように思います。しかし、これから問題解決能力を向上させなければならぬと感じる良い経験が得られたと思います。オーストラリアでは、友達に貴重品をすべて預けてしまい無一文になったり、夜中にホストファミリーの家のベルが鳴ったりするなどの波乱が続きました。日本では対応できるであろうことでも、海外にいるとどのように対応すれば良いのかわからなくなることがあります。私には問題解決能力を向上させるための経験が少なく、今回の経験から、問題が起こる前のリスク管理が必要であることを知ることができました。

3) オーストラリアでの多文化理解によって自分の視野を広げること

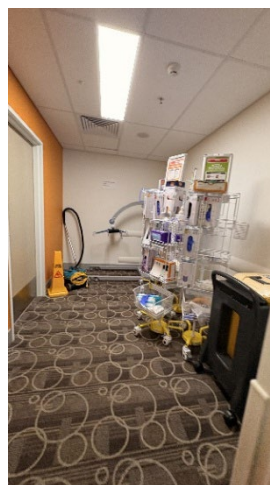
オーストラリアには非常に多くの国籍の方々がいました。Griffith 大学での英語レッスンの先生はアルゼンチン出身でした。また、Gold Coast Private Hospital で働いている方もアジア系の方が多くいました。先生方やホストファミリーと食事など様々なことの違いなどを話すことで多文化社会を知ることができました。

4. これからの自分

オーストラリアに行ってみて、実際、外国人の話す英語のスピードが早くてなかなか聞き取れなかったり、思ったことが通じなかったりしてもどかしく感じました。これらの経験から、今後、英語学習に計画的に取り組もうと思いました。また、人に頼らず自分で何でもできるように身の回りのことからしっかりしようと思いました。

5. 医療施設見学

Gold Coast Private Hospital の施設は非常に清潔感があり、綺麗でした。妊娠している人は旦那さんと一緒に入院するという話が日本では考えられないことなので、とても衝撃的でした。病室では、家族や患者様全員が押すことのできる黄色と緑色のボタンがあるのに対して、看護師などの医療スタッフのみが押すことのできる赤いボタンがあることなど、大変興味深いお話を聞くことができました。



6. 交流体験（ホームステイなど）

私がホームステイさせていただいたお宅には、なんとプールがあり、プールで遊ぶことができました。また、ホストファミリーと気軽にお話できたことでとても充実した時間を過ごせました。さらに、ホストマザーが作ってくださる料理がとても美味しく、たくさん頂きました。また、「これいる??」と尋ねてくださり、毎日お腹いっぱい食べることができていました。一方、初日から変換プラグを忘れるという大失態を犯してしまったのですが、ホストファミリーに話したところ、変換プラグがある店を探し、車で連れて行ってくれました。感謝しかありません。海外で何か忘れてたり、何かしでかしたりした時は、英語で説明するが大変かもしれませんが、勇気を振り絞ってホストファミリーなどに相談することをおすすめします。



7. 渡航先について（気候、食べ物、生活環境など）

オーストラリアが秋だったこともあり、気候は日本の夏に比べて過ごしやすかったです。また、湿度は日本よりも低いため、気温が高い日でもカラッとしていました。食べ物は少しジャンキーなものが多いですが全て美味しかったです。秋なので蚊や毛虫などの虫はたくさんいましたが、過ごしやすくいい気候だと思いました。オーストラリアでの経験は、自分の人生において本当にかげがえのないものになりました。

